

シンポジウム

「病院におけるライブラリアンシップ」

発表者

1. 司書の養成教育
昭和大学附属烏山病院図書室 杉森 弘子
2. 運営と管理
広島市民病院図書室 岡橋 郁子
3. レファレンスサービス
大阪回生病院図書室 加島 民子
4. 資料の選択・収集 - 現状と今後の課題 -
名古屋第一赤十字病院図書室 笠原 廣子

司会 星ヶ丘厚生年金病院図書室 首藤 佳子
京都市立病院図書室 重富 久代

司会（首藤）：ただいまから「病院におけるライブラリアンシップ」のシンポジウムを始めます。趣旨説明に先立ち、このシンポジウムのためのアンケート調査に多数ご協力をいただきましたことのお礼を申し上げます。ありがとうございました。集計結果につきましては、資料の中に簡単なまとめを同封してありますので、参考にしながらお聞きになって下さい。

さて、従来より図書館の存立基盤は「人」と「資料」であると言われていました。ところが、私たちが勤務する病院図書室では、皆さんもご存じのようにそのどちらも大変不備な状況にあります。最近では情報サービスの機械化、多様化が進み、病院でもそれらのサービスの提供は必須のものになってきつつありますが、存立基盤の脆弱な中でこれらの新しい課題に取り組むのは大変難しいことなのです。また、病院図書室についての「症状」は今までにいろいろと出されているけれども、具体的な処方せんについ

てはあまり話し合われたことがなかったのではないかとも思います。そこで、今回は図書館の「人」に問題を絞って、まず4人のシンポジストの方から4つの視点- 1.司書の養成教育、2.病院図書室の運営と管理、3.レファレンスサービス、4.資料の選択と収集-から図書館員の役割あるいはその現状と問題点など話題提供していただき、その後皆さんとご一緒に病院図書館員のライブラリアンシップについて考えてみたいと思います。

「教育」につきましては、図書館員教育の現状と課題、現任教育を実のあるものにするにはどうしたらいいか、あるいは図書館員としての資質は育てることができるものなのだろうか等をポイントに、「マネジメント」に関しては病院図書室は何を目指して図書館作りをしていたらいいのか、院内における図書室の位置づけはどう考えたらいいか等を病院図書室の特殊性に添って話し合えたらと思っています。また、

「レファレンスサービス」では必要とされる技術や知識、およびサービスの評価について。特にサービスの評価については図書館活動の評価については、図書館員自身の評価、利用者の評価、管理者の評価のポイント、考え方が少しずつ異なると思いますが、時間があればその点についても考えてみたいと思います。「資料の収集」については、これに関する図書館員の役割、あるいは要求される専門性といったことを主に考えてみたいと思っています。

進行につきましては、前半（シンポジストの発表）を重富が、後半（討論）を私が受け持

ちますのでよろしくお願いいたします。また、時間が限られておりますので、お手元に質問用紙をお配りしてあります。討論に移ります前の休憩時に集めたいと思いますので、各発表をお聞きになりながら質問事項等必要項目の記入をお願いします。

司会（重富）：司会を代わりました。京都市立病院の重富です。では最初に「司書の養成教育」について、昭和大学附属烏山病院の杉森弘子さんにお願いします。

1. 司書養成教育について

昭和大学附属烏山病院 杉森弘子

はじめに

昭和25年4月30日に制定された「図書館法」第6条の規定に基づき、公共図書館の専門的職員の養成を目的とする講習会が翌26年夏から開始された。これが今や200の大学や短期大学で行われている司書講習の源であります。

それから30年を経た今日、図書館の事情は大きく異なり、図書館の数も、蔵書も、職員の数も充実してきました。コンピュータの導入により図書館業務の機械化が進み、オンライン情報検索が可能になり、館種を超えた図書館間の協力、システム化が急がれています。テレコミュニケーションの発達により外国ともオンラインで情報が流入できる時代になり、図書館界の国際化も絵空事ではなくなりました。

しかるに、わが国の図書館界には司書職が確立されておらず、人事異動で全くの素人が図書

館に回されてきたり、また、司書資格を持つ図書館員が図書館と無関係の他の部署に転出していく。これでは図書館界でリーダーシップのとれるプロのライブラリアンは育たず、業務の蓄積もできない。図書館界が大きく変化することを迫られている時期に人材養成の一翼を担う司書課程について考えてみました。

1. 司書講習と司書課程

司書課程という語は、「図書館法」でも「施行規則」でも使われている訳ではありません。2ヶ月間集中して行われる司書講習に対して、同じ内容のものが大学や短大で学年暦に合わせカリキュラムの中に組み込まれて履修できるようになっているものを、講習と区別して便宜上司書課程と呼んでいるにすぎないのです。

(1) 司書講習